

探究科学コース 2 年生「課題研究発表会」12 月 23 日(土) 体育



今年も課題研究発表大会が行われた。探究科学コースの 2 年生は、全員がテーマを決めて、1 年間にわたって課題研究に取り組む。その発表会が、12 月 23 日(土)体育館で行われた。

◀ 発表の様子。体育館の壁にポスターやスクリーンを設置し、発表を行った。自然科学や医療保健、教育と社会などの 8 グループに分かれ、発表 10 分、質疑 3 分で、発表者が入れ替わりながら順番に発表を行った。



分 野:自然科学

201 梶本 穂乃香さん (国光原中)

テーマ:生分解性プラスチックを作る～ペットボトルを土に埋めよう～

私は課題研究発表を通して、「一つのテーマを突き詰めることの大変さと楽しさ」や「人に伝えることの難しさ」を学びました。突き詰めていく中で分からないことが出てきたり、実験が上手くいかなかったりしました。発表では相手に分かりやすく伝えるためにスケッチブックを利用しました。声の大きさや話し方に注意して興味を持ってもらえるようにすることが難しかったですが、本番は上手く発表することができたので良かったです。今回の課題研究発表会で、進路へ一歩踏み出せたかなと思います。そして、ここまで私を支えて下さった担当の齊藤先生や、当日見に来て下さった方々に感謝し、これからの進路実現に生かしていきたいです。



◀ 201 池野 友哉くん(三納

探究 2 年

42 名▶

分 野:言語

▼田中佑姫

テーマ:アクセントがもたらす言葉の付加価値につ



探究科学コース四期生となる私たちの課題研究発表。「年々クオリティが上がってきていて…」先輩方を超えるような発表ができるのだろうか。先生のその言葉に腹を痛める毎日が続いていた。まったく、ハードルを上げるのは陸上選手だけで十分だというのに、と一抹の不安を感じながら本番に挑んだ。結果は、自分で言うのも何だが、大々々成功だったと思う。

自分のやりたいことを詰め込んだハチャメチャな発表だったが、来て下さった方々が腹筋大崩壊の大爆笑を起こしていたのが印象に残っている。何度も相談に乗って下さり、その度に適確なアドバイスをしてくださった前川先生には感謝してもしつくせない。

都農尾鈴マラソン 2 月 11 日(日) 約 40 名弱 ボランティア参加



第 50 回都農尾鈴マラソンが行われ、本校から約 40 名弱のボランティアが参加しました。ボランティアの仕事は、給水所、記念品や花の贈呈、記録集計など様々。大会運営をしっかりとサポートできました。



宮崎県立
高鍋高等学校



〒884-0002
児湯郡高鍋町大字北高鍋 4262
TEL : 0983-23-0005
FAX : 0983-23-5096

インタビュー 【調査研究分

榎木優衣さん（高鍋西中） 竹崎彩夏さん（富田

二人の夢は、「歯科衛生士」になること。3 年生の 4 月から始まった課題研究のテーマを決めるのに今後の進路を考えて、「もっと歯について詳しく学んでおきたい」と考えた。そこで二人は、歯を研究テーマにし専門的に調べた。一言で歯と言っても、歯や歯茎、歯周病や矯正など、様々な分野に分かれる。それぞれが一番興味のあるテーマを専門的に調べ、研究を深めていった。調べ始めると、自分達の知らない専門用語がたくさんあり、用語を理解するのに苦労した。また、調べてもどうしても気になることは、「実験」して検証し、より深く理解するようにした。1 年間かけて行った研究の成果を発表する課題研究発表会では、「スライド」を用いて発表するプレゼン方式。理解するのに苦労した専門用語を、人に分かりやすく伝えることの難しさを痛感した。例えば、「スライドでの説明を詳しくすると、口頭での説明は短く済むが、見にくい」、「スライドでの説明を簡単にすると、口頭での説明が長くなる」ことなどである。「スライドにまとめる」と一言で言っても、工夫すべきことがたくさんあり、とても難しかった。何度も試行錯誤を繰り返し、47 ページに及ぶスライドを完成させた。本番はどうだったかと尋ねると、「とても緊張した。結局、言葉数が多くなってしまい、分かりづらいところがあったのではないかと心配している。」と謙虚な様子。また、「受験の時期ともかぶり、大変だったが、この経験が受験に生かされたと思う。」と語った。



生活情報科は 3 年次より 5 つの分野に別れて、課題研究を行っています

- ◎ 調査研究分野
- ◎ 食物分野
- ◎ 被服分野
- ◎ 各種検定分野
- ◎ 簿記分野

インタビュー 【食物分野】

森口くんは「食物調理技術検定 1 級合格」を目標にしながら課題研究を行った。なぜこの課題研究に決めたかという、栄養の知識、献立作成力、技術力、段取り力など、食に関する能力が向上すると考えたからだ。今年のテーマは「15 才妹の卒業祝い」、指定調理が「ねじ梅」と「ホワイトソースを使った料理」だっ



森口 魁斗くん（高鍋東中）た。中でも苦戦した一つがねじ梅だった。何本人参を使ったかわからないほど練習した。苦戦した二つ目はセルクルを使った主菜であった。また、それと同時にテーマに合った自分なりの「献立」を考え、それを実際に作り、先生方にアドバイスをもらい、納得のいく献立ができるまで何度も作り、本番ギリギリまで試行錯誤を重ねた。そして、最大の苦戦は、段取り力であった。練習することでもかなり時間短縮できたが、本番の時間超過は避けられなかった。試験本番。「とても緊張した。」と語った。調理は全行程を 90 分で行わなければならない。「本番直前まで試行錯誤しベストな献立を考えたが、タイムスケジュール通りにはい



なかった。」と悔しさをにじませていたが、「この課題研究を通して今までにない達成感を味わい、また諦めない心を身に付けることができた。」とも語り、合格を手にした森口くんを頼もしく感じた。

◀ 実際に検定の時に作った



インタビュー 【食物分野】

岩崎 真理菜さん（富田中）父へ感謝の弁当

Pig リ箱

食物調理技術検定 1 級合格を生かして「弁当コンテスト」に応募した。いつも自分の為に弁当を作っている父。テーマは「父への感謝とびっくり箱のような弁当」にした。学校で学んだ知識を元に、何度も何度も献立を考えた。献立には卵焼きが欠かせない。それが、私の思う父の味だからである。そして完成した、かわいい豚のキャラ弁、その名も「Pig リ箱」。この弁当を父に渡したら「嬉しいよ」と言って喜んでくれた。楽しんで作ったので、受賞を意識しているわけではなかったが、多くの参加者の中で 10 名しか選ばれない、特別賞を受賞した。授賞式には父も来てくれた。今まで恥ずかしくてできなかった「感謝」をここで表現することができた。「どうして今まで感謝が表現できなかったのだろう。いや、今だからこそできた。」と語ってくれた。心温まるエピソードに発表会場は笑顔に包まれた。



生活情報科 3 年生 **進路体験発表会** ～私の進路が決まるま 1 月 26 日(金)

生活情報科(2・3 年)、生活文化科(1 年)の全生徒が一同に会し、進路を決定した 3 年生から後輩に具体的なアドバイスが送ら

「大学進学を目指して」 長町 美咲さん（高

管理栄養士を目指し彼女が取り組んだことは、「毎日 5 時に起きて勉強」、「休み時間などの隙間時間の活用」、「授業に集中する」ことである。「家ではごはんとお風呂以外は常に勉強していた。」と笑顔で語った。2 年の終わりぐらから進学を意識し始めて毎日あきらめず努力し続けた。彼女がひたむきに努力する姿を、クラスの誰もが知っている。そんな彼女からは、後輩に向けて「最後まで諦めないこと」と「定期テストを大切に」とアドバイスがあった。



▲長町美咲さん



田中佑姫乃さん

「進路実現まで」 田中 佑姫乃さん（都農中）

先生との面接練習のたびに、反省点とよかった点を記録した。回数を重ねていくことで緊張に慣れていくことができた。「本番は、ノックするまですごく緊張した。面接が始まるとスラスラ話することができた。」と自信をのぞかせた。また、情報検定 1 級取得や美術部部长、授業で取り組んだホームプロジェクト活動での県大会出場など、アピールできることがたくさんあったことも自信につながった。後輩へ、「休まないこと」、「定期テスト」、「部活動等の取り組み」など、学校生活を大切にするようにアドバイスした。

生活情報科 課題研究発表大会 原稿
食物分野

生活情報科の生徒は、3年生になると全員がそれぞれの専門分野に特化した課題や研究テーマを持ち、研究を行っている。週2時間の「課題研究」という授業では、それぞれの研究テーマをより深く学ぶことができる。1年間にわたって行ってきた研究の成果を発表するのが、毎年この時期に行われる「課題研究発表大会」である。

生徒は5つの分野に分かれて課題研究を行っている。代表者が発表を行った。

【食物分野】森口 魁斗くん（高鍋東中学校）、岩崎 真理菜さん（富田中学校）

森口くんは「食物調理技術検定1級合格」をテーマに課題研究を行った。食物検定1級には、定められたその年のレシピのテーマや指定された課題（実技）等があり、今年のテーマは「15才妹の卒業祝い」、指定調理が「ねじ梅」と「ホワイトソース」だった。そこで、合格に向けてまずは包丁さばき（ねじ梅）を特訓した。これを習得するのに、学校に残り放課後を使って練習したり、おうちでも練習して、かなりの時間がかかった。また、それと同時にテーマに合った自分なりの「献立」を考え、それを実際に作り、先生方にアドバイスをもらい、納得のいく献立ができるまで何度も作り、本番ぎりぎりまで試行錯誤を重ねた。試験本番。「とても緊張した。」と語った。調理は全行程（前菜・スープ・主菜・副菜・オレンジババロアの5品）を90分で行わなければならない。「本番直前まで試行錯誤しベストな献立を考えたが、タイムスケジュール通りにはいかなかった。」と悔しさをにじませていた。また、「この課題研究を通して今までにない達成感を味わい、また諦めない心を身に付けることができた。」とも語り、成長した森口くんを感じることができた。

供応食や行事食をきちんと作っていけるほどの技術と知識が求められます。実技は指定された食品を2品含めながら供応食や行事食の献立を30分で考え、調理を90分以内でしていかなければなりません。筆記試験ではそれぞれの栄養素によって代謝率がどれほど違うのかとか、それぞれの現在の年齢とこれからの年齢を考えながらどんな栄養計画を作るべきか、さらには料理様式に合わせてどのようにテーブルコーディネートをするべきかなどが出題されていきます。

生活情報科
3年生

7月19日～21日、(財)全国高等学校家庭科教育振興会主催による食物調理技術検定1

生活情報科は5つの分野に別れて、
課題研究を行っています

- ◎ 調査研究分野
- ◎ 食物分野
- ◎ 被服分野
- ◎ 各種検定分野
- ◎ 簿記分野

級が本校調理室で行われ、食物栄養科の3年生全員が受検しました。指定調理が、「ねじ梅」と「ホワイトソース」でした。

90分で、前菜・スープ・主菜・副菜・オレンジババロアの5品を一人一人が献立を立てるところから始めます。

【調査研究分野】竹崎 彩夏さん（富田中）、榎木 優衣さん（高鍋西）

二人の夢は、「歯科衛生士」になること。3年生の4月から始まった課題研究のテーマを決めるのに今後の進路を考えて、「もっと歯について詳しく学んでおきたい」と考えた。そこで二人は、歯を研究テーマにし専門的に調べた。一言で歯と言っても、歯や歯茎、歯周病や矯正など、様々な分野に分かれる。それぞれが一番興味のあるテーマを専門的に調べ、研究を深めていった。調べ始めると、自分達の知らない専門用語がビックリするほどたくさんあり、用語を理解するのに苦労した。また、調べてもどうしても気になることは、「実験」して検証し、より深く理解するようにした。そうやって1年間かけて行った研究の成果を発表する課題研究発表会では、「スライド」を用いて発表する。理解するのに苦労した専門用語を、人に分かりやすく伝えることの難しさを痛感した。例えば、「スライドでの説明を詳しくすると、口頭での説明は短く手済むが、見にくい」「スライドでの説明を簡単にすると、口頭での説明が長くなる」ことなどである。「スライドにまとめる」と一言と言っても、工夫するべきことがたくさんあり、とても難しかった。何度も試行錯誤を繰り返し、〇ページに及ぶスライドを完成させた。本番はどうだったかと尋ねると、「とても緊張した。結局、言葉数が多くなってしまい、分かりづらいところがあったのではないかと反省している。」と謙虚な様子。また、「受験の時期ともかぶり、大変だったが、この経験が受験に生かされたと思う。」と語った。

※森口くんの原稿はこちらを使ってください。

森口くんは「食物調理技術検定1級合格」を目標にしながら課題研究を行った。なぜこの課題研究に決めたかという、栄養の知識、献立作成力、技術力、段取り力など、食に関する能力が向上すると考えたからだ。今年のテーマは「15才妹の卒業祝い」、指定調理が「ねじ梅」と「ホワイトソースを使った料理」だった。中でも苦戦した一つがねじ梅だった。何本人参を使ったかわからないほど練習した。苦戦した二つ目はセルクルを使った主菜であった。これを習得するのに、学校に残り放課後や自宅でも練習し、かなりの時間がかかった。また、それと同時にテーマに合った自分なりの「献立」を考え、それを実際に作り、先生方にアドバイスをもらい、納得のいく献立ができるまで何度も作り、本番ぎりぎりまで試行錯誤を重ねた。そして、最大の苦戦は、段取り力であ

った。練習することでかなり時間短縮できたが、本番の時間超過は避けられなかった。試験本番。「とても緊張した。」と語った。調理は全行程を 90 分で行わなければならない。「本番直前まで試行錯誤しベストな献立を考えたが、タイムスケジュール通りにはいかなかった。」と悔しさをにじませていたが、「この課題研究を通して今までにない達成感を味わい、また諦めない心を身に付けることができた。」とも語り、合格を手にした森口くんを頼もしく感じた。



【進路体験発表会】

生活情報科文化科卒業後の進路は就職、進学など多岐に渡る。同じ教室に通う 3 年生は、それぞれの自分の進路に向かって、何かにひたむきに取り組み、大切に過ごしている。進路が確定した先輩たちから後輩への進路体験記が発表された。

大学進学を目指して

長町 美咲さん（高鍋東中学校）

田中 佑姫乃さん（都農中学校）